

第3学年国語科学習指導案

日 時：令和3年

学 級：

会 場：

指 導 者：

1 単元(題材)名

根拠をもとに自分の考えを書こう ～人工知能とわたし～

「人工知能との未来」羽生善治／「人間と人工知能と創造性」松原仁（光村図書 国語3）

2 本単元における言語活動

二つの文章を批判的に読み、読み取ったことを根拠にして、「人工知能とわたし」について自分の考えを書く。

3 内容のまとめ

〔第3学年〕「知識及び技能」（2）情報の扱い方に関する事項

〔第3学年〕「思考力、判断力、表現力等」C読むこと

4 単元(題材)の目標

- (1) 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。 「知識及び技能」
- (2) 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。 「思考力、判断力、表現力等」
- (3) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。 「思考力、判断力、表現力等」
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

5 単元(題材)について

(1) 生徒について

1学期の学習では、「作られた『物語』を超えて」の単元で、書いてあることをうのみにせず、疑問を持ちながら文章を読むことができた。また、「報道文を比較しよう」の単元で、二つの文章を読み比べ、表現のしかたにより、情報の伝わり方にちがいがあるということに気づいた。

(2) 教材について

本教材は、人工知能との付き合い方について述べた二つの論説で構成されている。身近な話題を切り口にして書かれた二つの文章の読解を通して、生徒自身にも「自分」の具体的な関心や生活とのつながりの中で人工知能との付き合い方を考えていくきっかけになると考える。

「人工知能との未来」では、人工知能を搭載した将棋ソフトの事例から、筆者が感じた二つの違和感について述べられ、また、「人間と人工知能と創造性」では、コンピュータに小説を書かせる研究の事例から、人間とコンピュータを対比して、それぞれの得意・不得意が述べられている。どちらも人工知能を肯定し、人間との共同を語っているようだが、人工知能との向き合い方には微妙な違いが見られる。

(3) 指導について

二つの文章を批判的に読み、読み取ったことを根拠にして、「人工知能とわたし」について自分の考え

を書く活動を設定する。二つの文章から納得できる叙述や、疑問に思う叙述を探し、その理由を考えることを通して、個々の読みを深められるように指導したい。その際、個々の読みをグループや全体でねり合うことで、一人では気づかなかった考えに触れ、様々な視点から考えられるようにしていく。そうした学習により、「人工知能とわたし」についての自分の考えが広がったり深まったりしたと実感が持てるように指導したい。

(4) 本研究との関わり

研究主題【主体的に学びに向かう生徒の育成 ～生徒の「問い」を大切にした授業を通して～】

①「生徒の問いを大切にした授業」について

身近な話題を提示しながら、人工知能について問いを持たせ、自分の考えを書きたいと思える導入を工夫する。単元のゴールに自分の考えを書くことを伝えることで、自分の考えを持とうとしたり、深めようとしていたりしながら、学習に参加できるようにする。また、単元を通して、個人、グループ、全体の場面を設定し、生徒どうしの学び合いによって学習が展開していくように授業をつくる。

②「問い」のある授業について

★学びを追求する課題設定

単元のゴールで「人工知能とわたし」についての自分の考えを書くことを踏まえ、その根拠とするために二つの文章を読んでいることを本時の導入場面で確認する。前時の学習では、二つの文章から納得できる叙述や疑問に思う叙述を探し、その理由について記入している。生徒は前時の学習を終えて、他の人の考えも知りたいという思いを抱くと思われる。本時は、前時に個人で考えたことをもとに、話し合い活動に取り組むことで、自分の考えを広げたり深めたりし、次時の学習へとつなげられるようにする。

★他者との関わりを大切にできる学習活動と、教師によるファシリテートの在り方について

前時に個人で書き留めた考えをグループで話し合い、全体で発表する活動を取り入れる。グループでの話し合いでは、自分の考えを出すだけでなく、自分の考えと比べながら他の人の考えを聞いたり、他の人に質問したりして、自分の考えを修正したり深めたりすることができるように促す。全体で共有する際には、同意見をまとめたり、異なる意見を対比させたりすることで、意見と意見をつなぐ役割を果たす。また、出された意見についてどう考えるかを各グループに問い、全体とグループを行き来することで、多くの意見を引き出し広める役割を果たす。

★学びを実感する振り返り

①今日の授業で分かった具体的な内容やついた力、②ペア、グループ、全体で友達から学んだこと（その友達の名前と発言内容を書く）、③単元（または今日）の学習でついた力を今後どんなことに役立てたいか。さらに調べてみたい新たな課題や疑問（と解決方法）、のどれかのパターンで毎時間振り返りを記入する。単元ごとに一枚の振り返りシートを使用し、単元のゴールや、そのための本時の学習の意義など、単元の見通しを持ちながら学習を進められるようにする。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。 (2)イ	①「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。 (C(1)イ) ②「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 (C(1)エ)	①積極的に二つの文章を批判的に読み、学習課題に沿って、自分の考えを文章にまとめようとしている。

7 指導と評価の計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	○学習の見通しをもつ。 ○二つの文章を読み、感想を書く。	・既習内容を確認し、単元のゴールと学習計画を提示する。	
2 ・ 3	○二つの文章を読み、内容を確認し、筆者のものの見方や考え方を捉える。 ○納得できる叙述や、疑問に思う叙述を探し、その理由を書く。	・ふせんに記入し、整理しながら考えをまとめるように促す。	【知①】 事実関係や裏付ける根拠、情報の発信元などを吟味し、情報の信頼性について確かめている。[ふせん、学習プリント] 【思①】 二つの文章の筆者の論述に対し、納得できる叙述や疑問に思う叙述を、その理由を明確にし、記述している。[ふせん、学習プリント]
4 本時	○前時に個人で考えたことをグループで話し合う。 ○全体で発表し、出された意見を整理する。 ○いくつかの意見について、再度グループで話し合う。	・ふせんの内容からグループを構成する。 ・意見を黒板にまとめ、思考の整理ができるようにする。	【思②】 自分の考えと比べながら他の人の考えを聞き、根拠を明確にして自分の考えを話したり記述したりしている。[観察、ふせん、学習プリント] 【態①】 自分の考えと他の人の考えを比較し、ふせんに加筆修正しながら、次の時間への見通しを持っている。[ふせん、学習プリント]
5	○「人工知能とわたし」について、自分の考えを書く。 ○お互いに読み合う。 ○単元の振り返りをする。	・これまでの学習を生かしながら書くように促す。 ・自分の考えと比較しながら読むように促す。	【思②】 根拠を明確にして自分の考えを記述している。[ふせん、学習プリント]

8 本時の指導

(1) 本時の目標

・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。【思考・判断・表現】

・積極的に二つの文章を批判的に読もうとすることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 展開

段階	学 習 活 動 (研究との関連★)	指導上の留意点○ 評価【◆】
導 入 10 分	1. 前時の復習をする。 ★学びを実感する振り返り (1) 前時の振り返りを紹介する。 2. 本時の目標を把握する。 ★学びを追求する課題設定	○前時の想起から、本時の学習内容につなげる。
本時の課題：筆者のものの見方や考え方について意見交流し、自分の考えに生かそう。		
展 開 30 分	3. 学習課題を解決する。 (1) 前時に個人で考えたことをもとに各グループで話し合う。 (2) 出された意見を整理する。 ★他者との関わりを大切に学習活動とファシリテートの在り方 (1つなげる) (3) いくつかの意見について、再度グループで話し合う。 ★他者との関わりを大切に学習活動とファシリテートの在り方 (4ゆさぶる) (4) 全体で共有する。 4. 3をいかして自分の考えを書く。	○前時に記入した内容から、グループを構成する。 ○出された意見を黒板にまとめ、思考の整理ができるようにする。 ○出された意見についてどう考えるかを各グループに問い返す。 ◆自分の考えと比べながら他の人の考えを聞き、根拠を明確にして自分の考えを話したり記述したりしている。【思考・判断・表現】[観察, ふせん, 学習プリント]
終 末 10 分	5. 振り返りをする。 ★学びを実感する振り返り (1) 本時の学習について、振り返りを記入する。 (2) 次時は本時の学習をいかして、「人工知能とわたし」について自分の意見を書くことを確認する。	◆自分の考えと他の人の考えを比較し、ふせんに加筆修正しながら、次の時間への見通しを持っている。【主体的に学習に取り組む態度】[ふせん, 学習プリント]

(3) 本時の評価規準

	十分満足 (A)	概ね満足 (B)	努力を要すると判断される状況への生徒への指導の手立て (C)
思 判 表	Bに加え、自分の知識や経験と結びつけたり、複数の根拠を関連づけたりしながら、話したり記述したりしている。	自分の考えと比べながら他の人の考えを聞き、根拠を明確にして自分の考えを話したり記述したりしている。	自分と相手の考えの共通点や相違点に注目するように促す。
態 度	Bに加え、他の人の考えを引き出したり、問い返したりし、自分の論述にいかそうとしている。	自分の考えと他の人の考えを比較し、ふせんに加筆修正しながら、次の時間への見通しを持っている。	単元の学習課題や、学習の見通しについて再度確認するように促す。